

第13回 東京低地河川活用推進協議会 議事要旨

日時：平成27年7月16日（木）10:00～12:00

場所：東大島文化センターレクホール

(1) 第12回協議会における議事要旨の確認

○内容について事前確認により了承。

(2) 東京低地河川推進協議会 平成27年度の進め方

- ・ステップ3で非動力船が利用できる船着場2箇所というのは、少ないのではないかと。小松川と岩淵の間には何か所か船着場はあると思うが。
- ・ステップ3での一般利用者には、プレジャーボート等も含んでいる。まず、ステップ3初年度の一般利用者が利用可能な船着場として、周辺に資源があり、多くの利用が見込める船着場を対象とした。
- ・かつて利用の中心的存在だった堀切菖蒲園のような、古典的なスポットが一般利用の対象から外れているのが残念である。綾瀬川の活用も含め、検討できないか。

(3) 自己責任を基本とした船着場利用に向けた社会実験について

- ・中学校のボート部は多数あったが、その多くが廃部になった。廃部の理由は、河川に船舶が増加したこと、指導する先生がいないこと等である。
- ・堅川で整備が進められている船着場は、どのような利用を目的とした船着場なのか。
- ・不法係留船の対策を目的とした船着場である。不法係留船を暫定的に停泊させる船着場として、利用者には、東京都に毎月使用料を支払って頂き利用してもらおう予定である。
- ・いい場所に整備しているので、不法係留船対策以外の利用もできるようになればよい。
- ・小学3年生の授業で川について学ぶ機会があり、その際に無料で乗船する機会があり、川や船への関わりを持つ機会があったが、現在は乗船の機会が無くなり、川への意識が薄れてきている。子供たちが川への意識を高めるための教育を行っていく必要があると考える。
- ・教育ではオリンピックに向けた5ヶ年計画というものがある。教育は重要なので、計画の中に川や船に関する内容を盛り込む事も必要だと思う。
- ・教育に限らないが、オリンピックを目標とした利用の検討ではなく、オリンピック後も利用できるように検討をする必要があると考える。
- ・この社会実験は、全国のリーディングプロジェクトとなるような取り組みだと思うので、全国の例となるような自己責任の船着場利用ルールを作ってもらいたい。
- ・全国への展開も大事だが、まずは、区等に自由使用を波及する事や協力体制をつくる事が大事だと思う。今年を含めた3年でそのあたりを考えて頂けたらと思う。
- ・社会実験をとおして自己責任による利用を広げるための課題を抽出し、まとめる事が出来ればよいと思う。
- ・完全開放に近い状態というのは、どういう状態なのか。
- ・事務局が利用時間の前にカギの開閉を行い、利用者側から見れば鍵が空いているような状態である。
- ・ステップ3の社会実験の中で、施錠無し、現地立ち会い無しの社会実験を実施してはどうか。また、ぜひ29年度から自由使用を実現して欲しい。
- ・亀戸中央公園乗船場の利用時間は、なぜ日没まででないのか。
- ・亀戸中央公園乗船場の利用時間が日没までではないのは、扇橋閘門の閉門1時間前までとしているためである。
- ・区の仕事として、水辺の活用をしっかりと考えていくことが必要と考える。
- ・港湾の貨物を、河川を利用して内陸地まで運ぶ社会実験を実施した事があった。結果としては、日本

の河川は流れが速く、距離が短い定期貨物の輸送に適しておらず、貨物の輸送は進んでいないのが現状である。

- ・また、今回お話を聞かせて頂き、協議会も社会実験も最終の段階にきているようなので、最後のハードルを残すのみというような感じを受けた。使う人のマナーと言う話もあったが、使っていく中で熟成されていくように思う。
- ・越えなければならないハードルは多いが、一つ一つ解決していくほかないと思う。
- ・現在、船着場利用に関する問い合わせが何件かあるが、この数は例年と比べ多いのか。
- ・例年並みと考えている。ただ、本年度から対象としている一般利用者の問い合わせが少ないので、一般利用者の利用促進に対する工夫が必要と考える。
- ・墨田区では、河川、水辺空間というものを貴重な地区資源と考えている。そんな中で、墨田区は、荒川に船着場を持っていないため、今回の社会実験には参加出来ていないが、昨年度墨田区も荒川の船着場に事業着手して頂いた。平成 29 年度以降の本格運用では、参加していきたい。
- ・観光の活性化という点では、舟運事業は大事な位置付けである。墨田区観光協会では、船を利用した取り組みとして、今年の夏にテーマ船をつかったイベントを行う。また、街歩きの中に船旅を取り入れたイベントも実施する予定である。
- ・船着場の利用促進のために、船が着ける船着場をいい場所に、いい形でふやして頂きたい。また、舟運は半分復活してきたが、ベネチアやアムステルダム等の海外事例も勉強して進めていく時期かと思う。
- ・また、子供たちが、川や船に関わる機会が減ってきているという話があったが、水辺を持っている区には、水辺を活かすようにして頂きたい。

(4) その他（紹介事項）について

■ 扇橋開門と荒川ロックゲートの通航実績について

- ・特に意見なし。

■ 荒川航行アプリの公開

- ・航行アプリは、荒川だけでなく都が管理している隅田川等も含める事ができればよいのではないかと。

■ 荒川ロックゲート 10 周年イベント

- ・荒川ロックゲートは、東京の塩の道再現事業の一環で造られたということ。また、東京の塩の道再現事業はまだ残っている事を再認識して頂きたい。

■ さいたまトリエンナーレ 2016

- ・特に意見なし。

今後の予定

- ・次回協議会は、平成 28 年 2 月に実施する予定である。

以上